

心理学・教育学分野の展望と 大型研究計画

松沢哲郎

まえがき

マスタープラン2014によれば、国家的な大型研究プロジェクトの推進には、長期間にわたって多額の経費を措置する必要があるため、社会や国民の幅広い理解を得ながら、長期的な展望をもって戦略的・計画的に推進していくことが強く求められる。日本学術会議は、区分I（新規192件）及び区分II（継続15件）の合計として新たに学術大型研究計画207件と、その中から重点大型研究計画27件を取りまとめ、マスタープラン2014として提言した。心理学・教育学分野では7件の学術大型研究が採択された。さらに重点大型研究計画のうち1件を担うこととなった。「乳児発達保育実践政策学」研究・教育推進拠点の形成—発達基礎の解明に基づく乳児期からの良質な保育・養育環境の構築、である。心理学・教育学分野の委員長の職責で、また、学術の大型研究計画検討分科会の副委員長として、心理学・教育学分野の大型研究計画の紹介をするとともに今後の展望を述べる。

策定された学術研究領域

「マスタープラン2014—第22期日本学術会議の大型研究計画—」の策定において、当該分科会の要請にしたがって、まず学術研究領域を策定した。心理学・教育学分野の将来展望のもとに建てた下記の10の領域である。

- 3-1 人間社会の持続的発展にこたえる心の科学
- 3-2 動物行動の柔軟な適応と集団行動創発
- 3-3 法と人間科学
- 3-4 融合的社会脳
- 3-5 心の先端研究
- 3-6 乳幼児保育・教育
- 3-7 学校教育・教科教育
- 3-8 高等教育・生涯教育・教師教育
- 3-9 教育行財政・国際教育
- 3-10 教育学理論・教育学研究法

前半の五つは主に心理学、後半の五つは主に教育学の分野が策定した。

学術大型研究計画7件の採択

今回のマスタープランの特徴のひとつとして公募になった。公募によって提案された課題は心理学・教育学分野で7件だった。提案された学術大型研究計画は、上記の学術研究領域とほぼ対応している。7件中6件の申請は「区分I」（新規）、1件は区分II（継続）である。学術の大型研究計画検討分科会等の審議を経て、そのいずれもが学術大型研究計画として採用された。第一部の人文・社会科学の10の分野別委員会の中では最も採択件数が多かった。

重点大型研究計画は、区分Iの新規提案中から厳選されたものである。第一部の人文・社会科学からは2件が採択され、その1件が心理

学・教育学分野の「乳児発達保育実践政策学」である。2歳児以下の乳幼児保育の重要性に焦点をあてた。以下では、学術大型研究計画に採択された7件について紹介する。なお詳細は、日本学術会議のホームページに掲載されているので、その付属資料を参照されたい（<http://www.scj.go.jp/>）。

学術大型研究計画の紹介

1. 「汎いのち学」研究・教育推進拠点の形成

本計画は、「伝統知による地球環境の世代間継承」と副題された。本計画は細分化した学術の個別領域を超え、人文学と自然科学が連携して生命の尊厳と共生を教え伝える「汎いのち学」創出の研究拠点を形成し、総合的・複合的視野を具えた次世代育成プログラムの開発・実施を行う。文理融合による総合学としての「汎いのち学」ネットワーク構築と「いのち」リテラシーの向上及び教育のプログラムを世界に発信。環境面での国際共同や災害時の支援など、「いのち」に関わる問題への対処方法の提言。自然災害の頻発、環境リスクの増大、いじめや体罰にみる生の実感の喪失など、「いのち」をめぐる問題は深刻化している。本計画は、文理融合的・総合的な学術共同及び教育プログラム開発・実施を通して社会貢献する。

2. 科学的な法の実務を支える研究・研修システムの構築

本計画は、科学的知見に基づく法の策定や、より良き実践を可能にするため、法と人間科学研究・研修センター（多領域連携を行うワンストップ室を含む）を設置し、基盤研究を進め、成果を研修として実務家や国民に提供する。①社会実装に耐える堅牢な学術成果が得られる。②問題解決を目指す社会的意義ある研究が可能。③個別研究班を法システムに沿って編成、研究力を強化できる。④法システムを前提とする国際的に対等な共同研究が可能。①科学的知見に基づく法の策定や実務は「信頼と連帯に支えられた社会」構築に資する。②実務家への知見提供・研修は諸機関の改革・改善案に沿っており、問題解決に資する。③実務の改善は予防的な経済的効果をもつ。

3. 融合的社会脳研究センター構築

本計画は、思いやり・道徳などの社会性を担う脳の仕組みを解明し、社会性適応障害の予防を心理・社会科学と脳科学の協働による融合的社会脳の立場から考える。不適応の解明を通し



PROFILE

松沢哲郎
(まつざわ てつろう)
日本学術会議第一部会員・心理学・
教育学分野別委員会委員長、京都大
学霊長類研究所教授
専門：比較認知科学

て、認知症・いじめ等の予防の方法を考える。社会性を担う前頭葉の脳内機構の解明が人文系諸科学の成果を取り込んで、融合社会脳という新たな学問領域を切り開きつつある。社会脳の衰退を招く症例を取り上げ、展望を拓く社会脳シリーズ全8巻を刊行中。社会が抱える社会不適応を、脳の制約をロボットとの共生で補完した社会脳デザインで改善し、高齢者や不適応者の健全な社会適応を促し、社会復帰させ医療関連の社会コストを大幅に削減し、関連産業の育成に資する。

4. 顔認知研究による社会性の理解と支援

本計画は、顔認知の問題により社会的な適応に直面する障害児・者と、その自覚がない精神疾患患者の支援を目的とした基礎研究を、認知科学・臨床科学・神経科学の連携で行う。障害児・者支援と理解、教育・療育の指導にも言及する。自閉症など社会適応困難者の脳内機能を明らかにし、その社会的支援を顔認知の解明を基礎に行う。近年の研究から、様々な顔認知障害の可能性が指摘され、その機能と学習過程を解明することは緊急の学術的問題である。社会や会社、学校教育現場といった様々な現場で、社会適応困難を持つ児・者がみられ、その能力のばらつきが問題視されている。顔認知の障害を起因とした可能性も高く、その支援と援助を追及することは必須である。

5. 「乳児発達保育実践政策学」研究・教育推進拠点の形成

本計画は、「発達基礎の解明に基づく乳児期からの良質な保育・養育環境の構築」と副題された。保育実践政策学確立のために乳児の保育の質と発達縦断研究、乳児発達基礎データベース、国際保育政策比較を基に子ども子育て政策提言と人材育成を行う。乳児発達に関し、発達心理学・発達神経科学、発達小児科学、保育学・教育学、社会福祉行財制政策学の研究連携での新たな学術領域の創造とわが国最初の国際研究拠点形成となる。少子化、待機児童、初期からの発達格差等の社会的課題に対して我が国の乳児発達実証データに基づき子どもの発達の視点からの具体的提言を行うことができる。

6. 子ども・青少年の成長・能力形成・キャリア発達と生育環境・学校教育に関する縦断的調査研究

本計画は、小中高高校生と保護者、教師を対象に成長・能力形成・キャリア発達とその影響要因について縦断的調査を行い、そのデータベース化、学術的知見の提供、及び教育の在り方に関する政策的・実践的提言を行う。①本研究による縦断的調査データベースの構築と研究者への公開、及び②同データに基づく当該テーマに関する学術的知見の国内外への発信は、発達研究や少年福祉・学校教育の在り方に関する研究に貴重な貢献となる。青少年の健全育成・福祉と学校教育の質向上は国際的にも国内的にも重

大関心事であることから、「エビデンスに基づく合理的かつ適切な政策・実践」の促進という点を含めて、本研究の社会的価値は高い。

7. 心の先端研究のための連携拠点 (WISH) 構築

本計画は、マスタープラン 2010 及びマスタープラン 2011 に採択され、かつ予算化が一部行われていて、今回は区分Ⅱとして採択された。文理連携による「心の先端研究のためのネットワーク」を整備し、心の働きとその認知・神経基盤、発達基盤、社会基盤、及び進化基盤を解明し、現代社会が直面する喫緊の課題の解決に資する心の先端科学を構築する。心理学・認知科学、発達科学、脳科学、実験社会科学、霊長類学、認知発達ロボティクスが有機的に連携する心の先端研究拠点の構築により、「社会的きずな」を作るヒト知性の本質に迫る日本発の学問領域が創成される。いじめやひきこもり、高ストレスによるうつ病や自殺の多発など現代社会が抱える心をめぐる社会病理の解決に向けて最先端の知見に基づく提言を行うと共に、科学的人間理解に基づく社会制度設計に資することができる。

結語

心理学・教育学分野では、マスタープラン 2010 及び 2011 において、心の先端研究のための連携拠点 (WISH) 構築が重要な大型研究と

して採択された。このたびのマスタープラン 2014 では学術大型研究 7 件が採択され、「乳児発達保育実践政策学」研究・教育推進拠点の形成が重点大型研究計画に採択された。WISH に続いて、乳幼児発達保育実践学が、我が国の代表的な大型研究計画に選ばれたことは、心理学・教育学がきわめて重要な学問分野であることを物語っている。それは心理学・教育学が架け橋の役目を担っているからだろう。二つの大型研究は、いずれも文理連携の学問分野の架け橋であり、研究教育と社会貢献をつなぐ架け橋である。負託されたものを重く受け止めて精進を重ねたい。なお、心理学・教育学分野別委員会は自前のホームページをもっている (<http://www.kokoro-scj.org/>)。ぜひ、参照し活用いただきたい。